

経済・金融  
フラッシュブラジル GDP (2023年10-12月期)  
—前期比で小幅マイナス成長に転じる

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

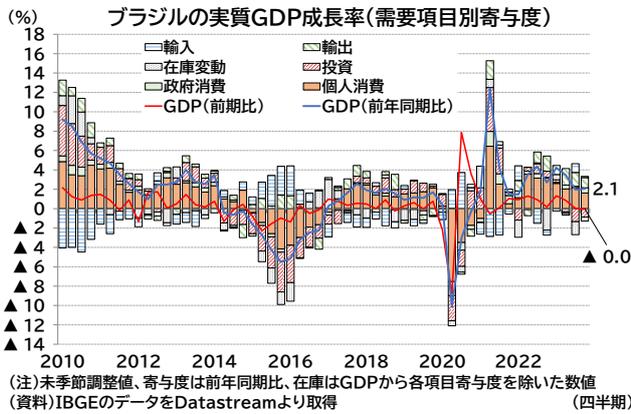
## 1. 結果の概要: 前期比▲0.0%と小幅マイナス成長

3月1日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

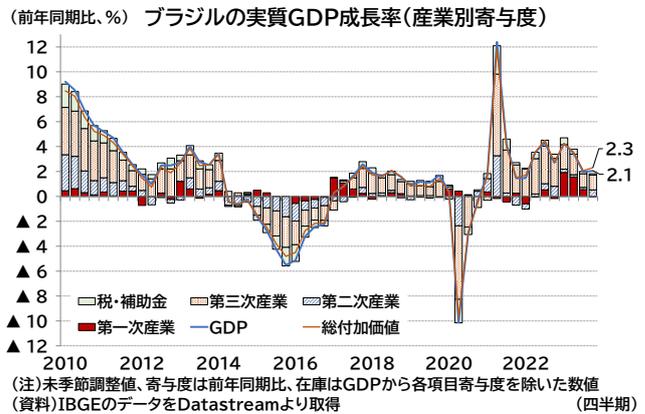
## 【実質GDP成長率（2023年10-12月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は2.1%、市場予想<sup>1</sup>（2.2%）を下回ったが、前期（2.0%）から上昇した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は▲0.0%、予想（0.1%）を下回り、前期（0.8%）からマイナスに転じた。

(図表1)



(図表2)



## 2. 結果の詳細: 輸出が急減速、消費はマイナス成長に

23年10-12月期の実質GDP伸び率は前期比▲0.0%（季節調整値、年率換算▲0.1%）と21年4-6月期（前期比▲0.6%、年率換算▲2.2%）以来となるマイナス成長となった。コロナ禍前（19年10-12月期）比では7.0%だった（図表4・5）。伸びのトレンドが見やすい前年比では2.1%となり、ほぼ7-9月期（前年比2.0%）並みの2%程度の成長率を維持している。23年の暦年成長率は2.9%（22年は3.0%）だった。

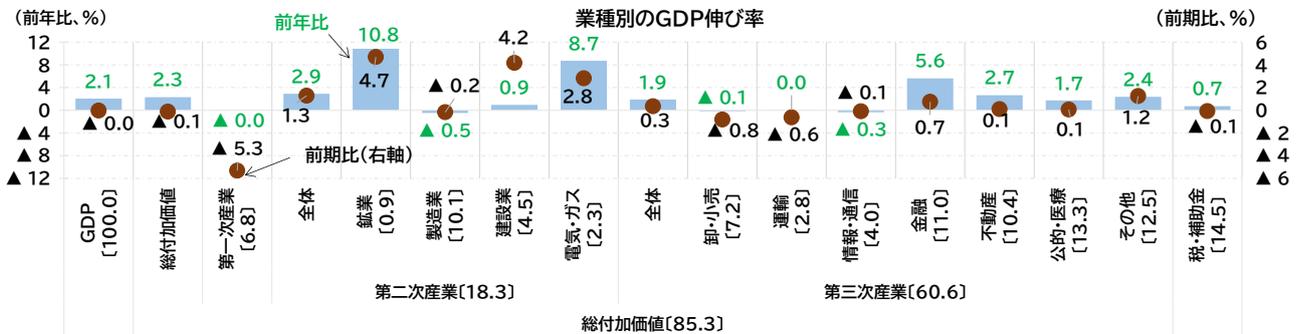
成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が▲0.2%（前期：0.9%）、政府消費が0.9%（前期：0.6%）、投資が0.9%（前期：▲2.2%）、輸出が0.1%（前期：2.8%）、輸入が0.9%（前

<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

期：▲2.1%）だった。投資の伸びが4四半期連続のマイナスからプラスに転じたが、消費の伸びがマイナスとなり、また輸出の伸びが大幅に減速した。

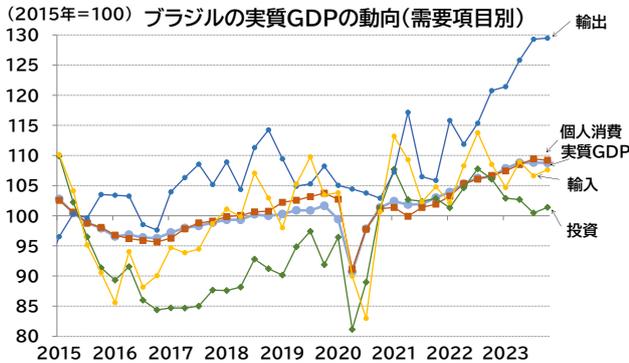
なお、コロナ禍前との対比では、個人消費が5.3%、政府消費が5.8%、投資が10.3%、輸出が19.6%、輸入4.0%だった（図表4）。

（図表3）



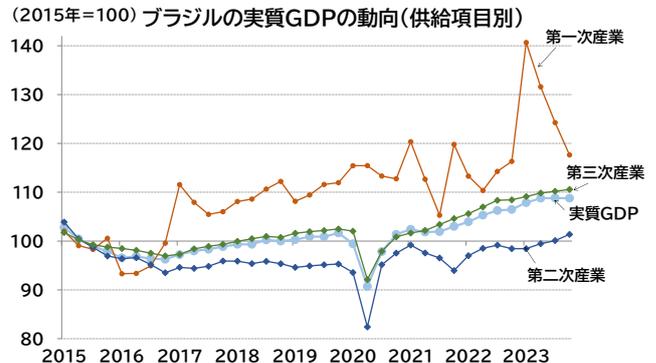
（注）カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値（データラベル）は黒が前期比、緑が前年比の数値（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（図表4）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（図表5）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

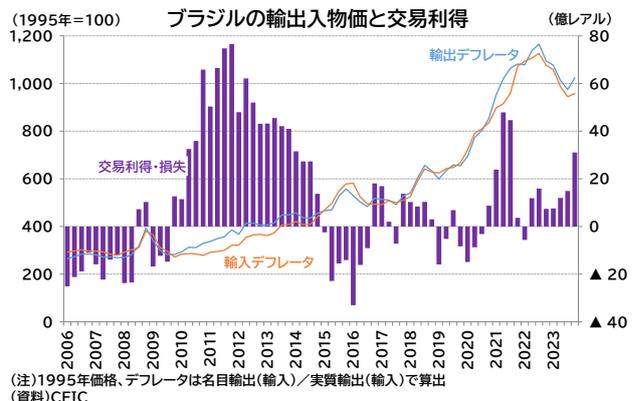
産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると（図表3・5）、第一次産業は前期比▲5.3%（前期：▲5.6%）、第二次産業は同1.3%（前期：0.6%）、第三次産業は同0.3%（前期：0.3%）だった。これまで大豆などの収穫が好調だった反動で第一次産業の大幅マイナス成長が続く一方、第二次産業、第三次産業はプラス成長が維持されている。

より細かい業種では、第二次産業のうち製造業が前期比▲0.2%となり、第三次産業のうち卸・小売業（前期比▲0.8%）、運輸業（▲0.6%）、情報通信業（▲0.1%）がマイナス成長となっている（図表3）。

23年10-12月期の名目成長率は前年同期比7.2%（前期：5.4%）と上昇した。その結果、名目と実質成長率の差（デフレータに相当）も5.1%（前期：3.4%）と上昇している。

交易条件に関しては、輸出デフレータが輸入デフレータを上回って上昇したため、改善幅が拡大している（図表6）。

（図表6）



（注）1995年価格、デフレータは名目輸出（輸入）/実質輸出（輸入）で算出（資料）CEIC

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。